

事業実績報告書

事業名	アジア太平洋地域における児童家庭問題・災害対応等のソーシャルワーク実践に関するシンポジウム及びワークショップ開催等事業
事業の実施状況	<p>1. アジア太平洋地域における児童家庭福祉問題・災害対応のソーシャルワーク実践に関するシンポジウム及びワークショップの開催</p> <p>アジア太平洋地域の各国ソーシャルワーカー団体の組織化の支援や人材ネットワークの構築、児童家庭福祉問題（児童労働・人身取引等）の具体的支援策の調整、災害時の連携、災害後の心理的ケアに関する研修・訓練並びにネットワーク体制の強化等を目的に、2回（インド、マレーシア）開催した。</p> <p><第1回></p> <p>[開催国] インド [場 所] キリスト大学ベンガルール校（ベンガルール市） [日 程] 2016年8月18日（木）、19日（金） [参加者] 約50人（インド、日本／ソーシャルワーカー、研究者、学生、法律家、政策立案職、NGO 国連コンサルタント等） [担 当] 木村 真理子（日本精神保健福祉士協会）、平田 美智子（日本社会福祉士会） [内 容] 児童労働と児童人身取引撲滅</p> <p><第2回></p> <p>[開催国] マレーシア [場 所] MAKPEM 研修センター（クアラルンプール市） [日 程] 2017年3月6日（月）、7日（火） [参加者] 約80人（マレーシア、インドネシア、パキスタン、バングラデイシュ、ネパール、シンガポール、パレスチナ、日本／ソーシャルワーカー、NPO 職員、政策立案職等） [担 当] 片岡 信之（日本精神保健福祉士協会）、ヴィラーグ ヴィクトル（国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域会長補佐） [内 容] 災害管理に向けてマレーシアのソーシャルワーカーのキャパシティ・ビルディング</p> <p>2. 香港ソーシャルワーカー協会会員の日本訪問の支援</p> <p>日本の社会福祉、保健・医療、教育等の現場訪問を希望する香港ソーシャルワーカー協会（香港社会工作者協會／Hong Kong Social Workers Association）に入会するソーシャルワーカーの訪問先の選定や調整等を支援した。</p> <p>[日 程] 2016年11月17日（木）～20日（日） [来日者] 22人（通訳者等含む） [訪問先] 日本社会事業大学（東京都清瀬市）、やさしい手（東京都世田谷区）、大田区立ひまわり苑（東京都大田区）、日本ダルク（東京</p>

都新宿区)、初台リハビリテーション病院 (東京都渋谷区)

3. インターネットによる事業実績等の周知・共有及び記録集の作成

1) 国際ソーシャルワーカー連盟及び IFSW アジア太平洋地域のウェブサイト及び Facebook への事業報告の掲載

国際ソーシャルワーカー連盟 (International Federation of Social Workers (IFSW)) 及び IFSW アジア太平洋地域の協力を得て、インド及びマレーシアでの事業実績をウェブサイト及び Facebook に掲載し、アジア太平洋地域のソーシャルワーカーをはじめ関係者に本事業の成果等を広く周知・共有した。

[URL] <http://ifsw.org/ifsw-asia-pacific/event-project-reports/>

[Facebook] <https://www.facebook.com/pages/IFSW-Asia-Pacific>

2) 世界ソーシャルワークデー2017 記念ビデオメッセージの作成及び IFSW ウェブサイトへの掲載

世界ソーシャルワークデー2017 (2017年3月21日) を記念して、社会福祉専門職団体協議会構成4団体の各代表者によるメッセージを収録したビデオを作成し、IFSW ウェブサイトに掲載した。

[URL] <http://ifsw.org/world-social-work-day-2017/>

3) 電子メディアによる記録集の作成

事業実績に係る関係資料を収録した CD-R を作成 (120 枚) し、社会福祉専門職団体協議会構成4団体の都道府県組織に配布するとともに、2017年9月に中国・深圳市で開催されるアジア太平洋ソーシャルワーク合同地域会議2017等で活用する。

4. 企画委員会の設置及び開催地への委員等の派遣

社会福祉専門職団体協議会構成4団体の関係者による企画委員会を設置し、プログラムの立案、講師等との調整、運営体制の確認、開催地となるソーシャルワーカー団体との連絡調整等を行うとともに、委員等を開催地に派遣した。

また、2017年度の開催地候補であるベトナムのソーシャルワーカー団体等との交渉等を行うため、委員をベトナムに派遣した。

なお、委員会への出席に係る交通費は所属団体が負担し、遠方の委員においてはインターネットのビデオ通話機能 (Skype) を利用して会議に参加する方法で実施した。

<社会福祉専門職団体協議会構成4団体>

公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本医療社会福祉協会、特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会

<企画委員長：1人>

木村 真理子 (日本女子大学/日本精神保健福祉士協会/IFSW アジア太

	<p style="text-align: center;">平洋地域会長)</p> <p><企画委員：8人></p> <p>大島 了 (麻布地区ふれあい相談室／日本社会福祉士会)</p> <p>中島 康晴 (地域の絆／日本社会福祉士会)</p> <p>平田 美智子 (和泉短期大学／日本社会福祉士会／IFSW アジア太平洋地域会計)</p> <p>片岡 信之 (四国学院大学／日本精神保健福祉士協会)</p> <p>小原 眞知子 (日本社会事業大学／日本医療社会福祉協会)</p> <p>高嶺 豊 (琉球大学／日本ソーシャルワーカー協会)</p> <p>春見 静子 (福井県立大学／日本ソーシャルワーカー協会)</p> <p>ヴィラーグ ヴィクトル (IFSW アジア太平洋地域会長補佐)</p> <p><事務局：5人></p> <p>坪田 まほ (日本医療社会福祉協会常勤職員／事業担当)</p> <p>中川 功 (日本医療社会福祉協会常勤職員／事業担当)</p> <p>荒木 千晴 (日本社会福祉士会常勤職員／事業担当)</p> <p>坪松 真吾 (日本精神保健福祉士協会常勤職員／財務担当)</p> <p>大仁田 映子 (日本精神保健福祉士協会非常勤職員／財務担当)</p> <p><協力団体></p> <p>India Network of Professional Social Workers' Associations (INPSWA) ／インド社会福祉専門職団体ネットワーク</p> <p>Malaysian Association of Social Workers (MASW) ／マレーシアソーシャルワーカー協会</p> <p>Hong Kong Social Workers Association／香港ソーシャルワーカー協会</p>
事業の成果	<p><インドにおける事業の成果></p> <p>「児童労働と児童人身取引撲滅」に関するワークショップは、社会福祉専門職団体協議会国際委員会とインド社会福祉専門職団体ネットワーク (INPSWA) との間で協議を重ね企画され、実際の運営は INPSWA とキリスト教大学社会福祉学部の教員との協力により進められた。</p> <p>1 日目は開会式で始まり、社会福祉専門職団体協議会国際委員会のメンバーであり IFSW アジア太平洋地域会長である木村真理子氏からの主催者挨拶があった。続いて、政策立案者からの基調講演、児童労働・児童人身取引の政策展開の法律専門家や研究者、実践家の実践報告が紹介され、ユニセフや NGO・公的機関の連携が語られた。</p> <p>2 日目は、児童労働・児童人身取引への政策課題や児童への支援方法の講演があり、その後3つのグループに分かれて活発な討論がなされた。最後に、討論内容の発表があり、参加者からのフィードバックを受けて閉会した。参加者からは、ソーシャルワーカーが児童労働と児童人身取引撲滅に取り組む技術や活動、政策提言の方法を学ぶ大変有意義なワークショップであり、今後も継続して開催してほしいとの意見が多かった。</p> <p>また、1 日目のワークショップと並行して1 年前に結成されたインド国内</p>

のソーシャルワーク専門職団体のコーディネーティングボディである INPSWA の総会が開催され、6つの地域組織の会長が出席、活動報告が行われた。当該組織への入会勸奨がワークショップの間になされ、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）に入会した意義を伝達している様子がうかがえた。

<マレーシアにおける事業の成果>

「災害管理に向けてマレーシアのソーシャルワーカーのキャパシティ・ビルディング」に関するワークショップは、災害支援の基礎知識に関する講義と現場に即した専門的・実践的なスキルを高めるグループワークの二本立てであった。多く講師が次々と登壇し、各分野や視点から語るではなく、フィリピンとマレーシアからの2人の講師がタッグを組んで、2日間のワークショップを一体的に運営した。

1日目は、災害に関する基礎的講義後、災害に対する脆弱性にはどのようなものがあり、それに対応するためどのような取組みを行うかをグループで議論・発表した。その後、アセスメント方法、心理的救急法（psychological first aid）等に関する講義があり、最後に、被災者への支援時における内容を話し合うグループワークを行った。

2日目は、被災者が安心できる場所作りや、特に子どもを対象とした支援活動のあり方の講義と意見交換を行った。ジェンダーの問題やLGBTの人々への配慮に関しても議論があった。また、災害支援における倫理問題を取り上げ、講義とグループワークを行った。マレーシアの民間支援団体から、自らの評価を高め活動資金を得るために活動の様子を積極的にPRしなければならないが、その際に被災者の写真を使用することの個人情報の問題や、先住民を含めた民族や文化の違いから来るジレンマが多くグループで指摘された。また、マレーシアでは、災害に対する市民の関心や政府の力の入り方もかなり低いとのことで、その状況の中で何ができるかが活発に話し合われた。人数は少なくとも高い関心と熱意をもって活動するコア的グループをまずは着実に育てること、学校教育の中に入り込んでいくことなどが提案されていた。

最後に、一人ひとりが今回のワークショップの感想を語るセッションを行った。多くの学びがあり、今後もネットワークを発展させて具体的な行動につなげていきたいという熱意に満ちた発言が続き、ワークショップは終了した。

<その他事業の成果>

香港ソーシャルワーカー協会会員の日本訪問の支援により、日港間の人材ネットワーク構築やアジア太平洋地域のソーシャルワーカー団体の活動に貢献できた。

また、インターネットによる事業実績等の周知・共有やビデオメッセージの公開により、日本のソーシャルワーカー団体として国際的なアピールを行うことができた。